

令和4年度 学校評価（重点目標 自己評価）
（岩沼高等学園川崎キャンパス）

達成度	80%以上	十分達成	A
	60%以上	概ね達成	B
	40%以上	やや不十分	C
	40%以下	不十分	D

		%	達成度	
実習棟の有効活用による専門教科の充実	・教育目標の理念に沿った専門教科の編成・実施方針等が策定されている	86	A	
	・川崎キャンパスの専門教科における理念・目的を理解し、指導に当たっている	83	A	
	・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されている	83	A	
	・川崎キャンパスでの専門教科における特色が出されている	92	A	
	・専門教科において、限られたスペースを最大限に活用し、設定した教育到達レベルに合った教育活動が行えた	84	A	
	コース	①-1実習棟において、介護技術（ベッドメイキング、車いす操作等）の指導が十分に行えた	85	A
		①-2実習棟において、家事援助（洗濯、調理）の指導が十分に行えた	82	A
		②-1実習棟において、規定コートを使用した清掃作業、洗車等の指導が十分に行えた	90	A
		②-2実習棟において、ピッキング、珈琲に係る作業、パッケージング等の指導が十分に行えた	88	A
	・専門教科に必要な備品等が十分に整備されている	69	B	
	・実習棟での学習活動時間は十分にとられている	83	A	
	・専門教科における個別の教育目標が、80%達成できた	81	A	
・社会のニーズ等を踏まえ、川崎キャンパスで担当する専門教科の将来構想を抱いている	78	B		
2コース制とデュアル・システムの推進と発展	・デュアルシステムにおいて川崎キャンパスと関連機関等が連携して教育効果が得られている	75	B	
	・2、3年生は、デュアルシステムにおいて将来の就労を見据えた態度で授業や実習に取り組めた	75	B	
	・1年生は、デュアルシステムを理解し、授業や実習に取り組めた	82	A	
	・コースのカリキュラムは体系的に編成されている	83	A	
	・コースと関連分野の企業・関係施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	75	B	
	・授業評価の実施・評価体制がある	69	B	
	・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れている	64	B	
	・教員はコースの授業を行うことができる専門性がある	75	B	
	・関連分野における業界等との連携においてマネジメントが行われている	72	B	
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力の育成等、専門性の向上に取り組んでいる	78	B	
・教員の能力開発のための研修等が行われている	64	B		
柴農川崎校とのインクルーシブ教育システム推進による活力ある学校づくり	・川崎キャンパスと柴農高川崎校との間で行われる、部活動のねらいが双方の理解の下、実施されている	69	B	
	・川崎キャンパスと柴農高川崎校との間で行われる、行事等のねらいが双方の理解の下、実施されている	78	B	
	・柴農高川崎校との協働活動において、インクルーシブ教育についての理解啓発等が行われている	69	B	
	・柴農高川崎校と川崎キャンパスにおいて、部活動や行事、その他の発展的な取組の構想がある	61	B	
通学型高等学園	・登下校に関する指導体制は整備されている（通学指導等）	78	B	
	・登下校時の緊急対応はできている（教員派遣、保護者への連絡等）	83	A	
	・学校として生徒が利用している交通機関の運行情報を適時適切に収集し、対応している	81	A	
	・生徒は、利用する公共交通機関におけるルールやマナーを遵守している	72	B	
	・通学は、生徒の自立支援になっている	92	A	
	・公共交通機関は、生徒が通学できる十分な本数で運行されている	36	D	
きめ細かな指導と実践	・教育目標や高等学園のニーズに応じた教育到達レベルを意識した教育活動を行っている	75	B	
	・中学校から提供された個別の情報等を適切に活用している	75	B	
	・生徒の個々のニーズ等を踏まえ、教育活動を行っている	75	B	
	・計画に基づいた授業を実施し、評価すると共に、実情に応じた適切な変更により改善に努めている	75	B	
	・成績評価、進級・卒業判定の基準は明確になっている	78	B	
・生徒間の小さなトラブルにも適切に対応し、いじめの未然防止及び早期発見に努めている	75	B		

【自由記述】

○交通機関について生徒指導部が中心となって対応しているが、急な時刻変更や本数の少なさと校内だけでは対応が難しいと感じる。
 ○いじめについて、今のところは担任や生徒指導部が早めに動いたり芽を摘むようにしている。来年度以降、個別相談に加えてこまめなアンケートを実施して、生徒が自分で気づいたり声を上げたりできるようにし、記録を蓄積していけるとよいと思う。
 ○生徒の実態を把握する機会が年度初め、または年度末にほしい（アンケートや簡易テスト）。その結果をもとに学年会や職員会議等で指導の方向性を明確にしていきたい。

【結果及び考察】

○「実習棟の有効活用による専門教科の充実」は、達成度Aが13項目中12項目となり、昨年度より1項目増加し目標は概ね達成できた。
 ○「2コース制とデュアル・システムの推進と発展」は、達成度Aが2項目であり、昨年度とほぼ同等であった。コロナ禍での実施の難しさが表れた結果といえる。特に福祉施設での受け入れは今年度も難しい状況であった。
 ○「柴農川崎校とのインクルーシブ教育システム推進による活力ある学校づくり」はすべてBであった。昨年度の2項目「A」から減少となり課題が残った。
 ○「通学型高等学園」においては、公共交通機関の運行に関わる項目が達成度「D」であった。昨年度は「C」であったが、立地による交通不便の改善は難しいところである。
 ○「きめ細かな指導と実践」は、すべてBであった。昨年度は6項目中4項目が「A」だったため、大きく評価を下げてしまった。保護者や生徒によるアンケート結果にも通ずるところがあるので、今後の対応をキャンパス全体で改善に向けて検討する。